

## 「中谷 一馬街頭演説会」

鈴木 善夫（ヤマト運輸労組横浜支部）

8月2日（水）17：00より日吉駅にて中谷一馬街頭演説会が開催されました。

冒頭、菅原あきひと神奈川県議会議員・かざまあさみ横浜市議員より港北区の自治体議員として挨拶がありました。

その後、中谷一馬衆議院議員・岡田克也立憲民主党幹事長より国民生活をより良く変えていくためのビジョンとして下記内容が共有されました。

（中谷一馬衆議院議員）

本当に多くの皆様にお世話になりながら、こうして政治活動をさせていただいているんだなど実感を致します。地域でお世話をやっている同僚、先輩方、そして働く連合の仲間たち、など様々な活動を前進されている仲間たち、そして後援会の皆様、そして地域の立憲民主党の県会市会の仲間たち、そして目の前に私の娘が今おりますが、家族の支えもあって親族の甥っ子・姪っ子も来てお



りますが、こうした皆様に支えていただきながら私、中谷一馬、26歳から政治活動をこの幸福の地で行わせていただき、気づけば今年で40歳になります。もう14年、政治活動をさせていただいている。私もずっと若手と思い続けてきたのですが、

だんだんと中堅のような年代になってまいりまして、この度、立憲民主党の神奈川県連で県連幹事長を拝命させていただくことになりました。本日、ご来場の岡田幹事長のように1000人を超える議員を有する本部の幹事長とは違いますが、県でも実は100人の議員を有する組織でございまして、100人の議員を束ねるナンバー2としての役割というのはこんなにも重たいものかと自分が役職について初めて実感をすることがあります。

本日は私の原点についてお話をさせていただき、その原点から今2023年、中谷一馬が考えている未来への展望、こうしたことについても触れさせていただきたいということを思っております。

簡単な自己紹介からさせていただきたいと思います。私は母子世帯の貧困家庭で育ちました。父と母が小学校5年生の時に離婚をし、母が女一つで私と妹二人兄弟三人を何とか養っていきこうと朝から晩まで働き続けてくれましたが、働いても生活が苦しくなるばかりでした。大人になってから分かったことですが、この国のひとり親家庭のお母さんたちは81.

8%の方が働いているにも変わらず50.8%の方が貧困状態。この状態は本人の努力が足りないではなく。多数のひとり親家庭のお父さん、お母さんが頑張っても生活していく。お金が稼げない。私はこの社会に制度に問題があるとのように痛感をいたしました。

政治の世界に入って分かったことがあります。明日のご飯を食べていくことができない。

そうした人種の間が多くなるなど感じる次第です。私自身も中卒で社会に出て挫折をし、私自身、道を大きく反れた時代がございました。その時に多くの仲間たちは、社会が悪い。

世の中が悪い。政治が悪い。政治家が悪いと口を揃えて不平不満に口を動かしていた。

なぜならそれを変えようという人は、私の周りにはほとんどいませんでした。だからこそ、私自身は 18 歳の時に、自分は何のために生まれてきて、どう生きて、どう死んでいこうかということを実際に考えた時に、どうせなら世のため、人のために今自分の周りで困っている友人たちや友人の家族、仲間たちを支えていけるような 1 億 2500 万人、国民の年間 100 兆円の予算配分を適正に変えていくことができたならば、私たちの生活はもっと緩くなるのではないかと感じ、こうした原点を持って政治の道を志しました。しかしながら、18 歳の時に政治家になる。そういった時に多くの方に言われました。中卒で政治家になれるわけないと、多くの仲間たちに言われた言葉です。本当に悔しかったけど、その通りだなということを感じ、私自身は 18 歳の時に通信制の高校に行って、そして専門学校に行って、また働きながら菅さんの秘書を得ながら慶応の通信に通って、そして、衆議院議員になってからはデジタルハリウッドという大学の大学院に顔を委ね今はインターネット投票の実現などデジタル政策に邁進をしている立場です。

私自身は、私たちの世代で私たちの同世代が苦勞したこと、また先輩たちが苦勞したこと、私の母親や親族が苦勞したことをできれば、孫子の世代には残したくないと思っています。

みんなが幸せになれるようなそんな社会を作っていくために私はこの港北からかざまあさみ、菅原あきひとと共に、岡田幹事長と共に政権を変えていきたいと思っています。

今日は方向性についてお話をさせていただきます。

先ずは本当に多くの皆様が生活に苦しんでいる環境であり、ウクライナの有事、そしてアベノミクスの残念ながら失敗により、円安、物価、高、低賃金、こうした 30 億のような状態が続いています。

私たちの社会の中で今働いている人の総数が 6700 万人程度おりますが、そのうちの非正規社員は 2000 万人を超えている。そしてこの 2000 万人の方々の平均年収は 198 万円、月 16 万 5 千円の給料で、家を変えて、ご飯を食べて結婚して出産する。そんなことが難しい世の中になっているからこそ出生率も上がらない。この現実を目を向けていかなければならないということを思っています。だから私は先ずこの正規社員と非正規社員の方々、まさに額に汗して働く皆様の給料をしっかりと上げていきたい。今、平均年収全体の平均年収が 443 万円。私は年 4% の賃上げを行える環境をしっかりと整備をして、5 年で平均年収を 100 万円上げていきたいということを思っています。また、最低賃金も 2030 年までに私は 1500 円まで引き上げていきたいということを思っています。最低賃金が 1500 円まで引き上がりますと、これも平均年収がザクッと 23 万円増加を致します。みんなが今まで自分たちが当たり前だと思っていた生活を送れるような環境整備を行わせていただきたいです。

私自身は、デジタルネイティブ世代の国会議員として、やはり皆様が使いやすいデジタル化の推進を行っていくことによって、皆様の生活をより豊かにしていきたい。皆さんマイナンバーの間

題など、今さまざま、世間を騒がせている政府のデジタル化ですが、私ははっきり言って完全にピントがずれていると思っています。マイナンバーカードに保険証を統一したいから、保険証をなくします。こんなことを言い始めたのですが、世界のデジタル化がうまくいっている国を見たときに、そんな国はほとんどありません。例えば、世界で一番マイナンバー制度がうまくいっていると言われているデンマークでは1968年からマイナンバーの制度を進めて2010年頃からまさに今の日本のマイナポータルのようなしっかりとしたWebサービスを作っていたことによって、時間をかけてデジタルとアナログを併用させていきながら、やっぱりデジタルの方が便利だね。と使ってみようかという社会情勢ができて、初めてデジタル化というものは進んでいくものです。スイカやパスモを普及させるのに皆さん切符廃止する必要ありません。廃止したような事例、そんなものは存在しないです。2001年にスイカやパスモ、これが導入されて20年以上の時期が経って初めてスイカ・パスモを使う人が8割を超えました。それでもスイカ・パスモを忘れる人がいるかもしれないから、そこに切符の券売機があって切符を買うシステムがあります。デジタルとアナログを併用させていくことがデジタル化を推進する。世の中を私ながらに私たちが与党を担わせていただいた時には私もデジタル担当大臣を目指し、しっかりと精進をしていきたいと思っております。

そして長期的には、私は持続的な経済成長と社会保障が必要不可欠だと思っています。どこまで行っても少子高齢化の抜本的な対策だと私は思っております。皆さん、出生率が1.2を切ります。そして経済成長率も1%にも至らない。こんな日本になってしまいました。理由はシンプルです。みんなが生活するお金が非常に苦しくなっている。出産するのも結婚するのも非常に大変になっている。結婚は贅沢品。子供は至高品と、こんな悲しい言葉がSNSなどで見られるようになりました。私は子供一人当たり最大1000万円の給付というものを掲げさせていただきたいと思っています。そんな数字本当に出せるのと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。実は1000万円という数字は月4万円、19年間で達成ができる数字です。しっかりと分割をして皆さんの生活を支えるに本当は4万円じゃ足りないかもしれないけども、こうした給付を適正に行っています。

そして出産に関しては、フランスは分娩まで含めて無償化です。そしてフランスでは3歳から保育学校が整備をされ、大学までの授業料もすべて無償化になっている。私は未来に希望が持てるそんな社会を真剣に作っていきたいということを思っています。私自身、こうした政策をしっかりと実現をしていくために、最近講演をさせていただいたことがございます。

2030年代2039年までに私は政権交代を実現し総理大臣を目指す。そうした心意気を持ち、今私が話した政策をしっかりと実現をして、孫子の世代に豊かな社会を残す、そして子どもたちの未来のために働く市民の皆様のために、そして時代を頑張って切り開いてくれたおじいちゃん、おばあちゃん一人一人の生活や暮らしを守るために私、中谷一馬、岡田克也幹事長、立憲の仲間たち。この港北から政治を変えるために全力を尽くしてまいりますので、皆様、どうか今後とも立憲民主党ご指導、ご面達をいただきながら育てていただきますことを私、中谷一馬からのお訴えとさせていただきます。

(立憲民主党幹事長の岡田克也)

今の中谷さんは、これから日本の政治をリードしていくそう  
いった若手の議員です。ぜひ皆さんの力で後押しして大きく  
育てていただきたい。最後に言うべきことを最初に言うのは  
あれですが、選挙区できちっと果たしていただきたい。そし  
て力強く前進させていただきたいと思います。どうか皆さん  
よろしくお願いします。



通常国会終わり、大事なことがいっぱい加わりました。しかししっかりと議論ができないま  
ま物事が次々と決まってしまうました。昨年の12月後半です。まず、防衛3文書は半ばまで国  
会やっていたのですが、その時は何も言わずに国会終わったのを見透かしたように、閣議決定で  
防衛3文書改定。その中には反撃力の話も書いてあるし、そして5年後には防衛費を倍増する。  
これから5年間で43兆円使う。そういったことが書かれている文書が閣議決定されました。本  
来、予算とか法律は当然国会で議論して決まるはずですが。しかし、岸田総理は閣議決定した上で  
1月早々にアメリカに行ってバイデン大統領にご報告、褒められて。国内の議論はそれからです。  
国会始まってからですから、これだけ大きな政策転換をする。5年間で43兆円というお金1億  
2000万人で割ってみてください。1人40万円弱でしょ5人家族ならその5倍ですよ。それだ  
けのお金を防衛費に注ぎ込むということに対して、国会で議論なく、国民に説明なく、勝手に決  
めてしまっています。そういう政治が今、横行しているのです。私も、日本取り巻く安全保障環  
境が厳しいことはわかっています。

中国の軍事費の大幅な増強、ロシアのプーチン大統領が何するかわからない。そういう中で日本  
がしっかりと防衛力を高めなきゃいけない。そのために予算も増やさなきゃいけないというこ  
とは当然の前提として認めた上でだけど、5年後に倍なのかということをお問うているのです。な  
ぜそこまで急速に増やさなきゃいけないのか。もちろんバンバン、借金して何でもできればいい  
ですけれども、皆さんの税金で成り立っている国の予算です。何にどれだけ使うかを決めるのが  
国会の最大の役割です。防衛費どれだけ使うか、子ども対策にどれだけ使うのか、高齢化対策は  
どうするのか、2025年問題となる団塊世代の皆さん全員が75歳を超えるのがあと2年先です。  
当然介護費や医療費1人当たりは変わらなくても人数が増えちゃうから、当然大きな予算が必  
要になるのです。防衛費と子ども対策、そして高齢者対策、もっと他にもたくさんありますが、  
それをどれだけどこにどれだけ使うか、優先順位をどうつけるかということをしつかりと国会  
で議論して、国民の皆さんにある程度理解、納得いただいて、決めていくのが正義じゃないです  
か。それが今ないのです。

民主党政権の前までは児童手当は小学校までしか出なかった。私たちが民主党政権の時に児童  
手当を高校まで出したいと考えた。だから高校は児童じゃありませんから、名前を子ども手当に  
変えたのです。中学校までは児童手当延長できましたけれども残念ながら、私たちの目指したも  
のの半分しかできなかった。もちろん財源の手当の問題もありましたけど、なぜできなかったか、

当時の野党自民党公明党です。この2党が徹底的に反対したから、私は当時与党の幹事長でした菅総理が残念ながら、参議院選挙で負けてしまった多数がなくなって法律一本与党だけでは通せないという状況の中で、野党であった自民党、公明党の協力が必要になって、私は当時、自民党の幹事長は石原さんでした。そして公明党の幹事長は井上さん、毎週のように会ってどうするかということをお互い協議しながらこのことを決めました。先ず言われたのは、子ども手当という名前が、けしからんから児童手当に戻せ、という事でした。私は考えて決めました。名前あきらめようと児童手当に戻すのは結構です。だけど、中身はせめて中学校までは伸ばしてほしい。散々言われました。バラマキだと、本当に悔しかったです。そして今あるのは、だいたいその時に作った原型です。それを岸田さんが高校まで出そうとか、言われています。私たちが目指している方向と基本的に同じですから結構ですが、この失われた10数年は一体何だったという。そこは反省してもらいたい。

もしちゃんとできていれば少子化問題もここまでひどくならなかったのではないかと私は本当に悔しいです。岸田さんの言う様々なメニューは並んでいます。私はこれからしっかりと議論したらいいと思う。私たちと合うものもあります。また私たちと違うものもあります。

しっかりと議論して余裕のものを作ればいいと私は良いと思います。だけど、2つの問題があります。1つは財源の問題です。どうやって3.5兆円の財源を作っていくのかということについて何も説明していない。何もと言っていいすぎかもしれないが、具体案があるならぜひ教えてもらいたいです。

エネルギー政策も大きく変わりました原発です。この夏の電力需給相当ひっ迫しています。

もし今稼働している原発も全部飛んじやったら、明らかに電力不足になります。原発いろんな問題あるけども私は決めています。我々政権を取った時にこれはやっぱりできません。ごめんなさい、というような、そういう政策は絶対に抱えるべきじゃない。だから、今、自然エネルギーがもっと本格的に入ってくるまでの間は原発にも頼らざるを得ないというのは現実だと思うけど、新しい原発はダメでそこはしっかりピン止めする。2050年に自然エネルギーと、そして自然エネルギー由来の水素、グリーン水素で全額電力を賄うというのが私たちの実験ミッションの考え方です。そんなものできないという人もいるかもしれない。ドイツを見てください。100%自然エネルギー。今から着々と準備始めています。今まで新しい原発を作りますかと言われて、安倍総理も菅総理も、そして参議院選挙の時の岸田総理も、それは想定していません、と答えてきた。原発依存度を軽減させるって言ってきた。今は原発を最大限活用するって言っています。そんな大きな転換を差したる議論もなく決めてしまう。そんな国会、私は間違っていると思います。もちろん私たちの非力もあります。だけど、今の国会見た時に、もちろん与党が非常に巨大だけど、それに加えて野党が分担されてしまっている。もっと野党がしっかり結束すれば、いろんなことができるはずです。去年の国会で旧統一業界の被害者救済法案っていうのはできました。いろんな不十分どころあるけれども、与党で協議してできた維新と立憲が組んだから、それはできていたのです。

だけどこの国会は特に統一地方選挙あたりから野党バラバラになっています。

立憲民主党。まず多様性を重んじる政党です。他の野党とは違います。そういう中で、例えば性的マイノリティの方、あるいは外国人女性、それぞれ一人一人を大切に自分を大切にする。同時に相手を尊重する、そういう社会をしっかりと作り上げていく。

これが立憲民主党です。そして先ほど中谷さんのお話もありましたけど、寄り添う政治です。困っている人にしっかりと手を差し伸べることができる政治、今困ってなくても、明日はものすごく困っているかもしれない。事態はいつでも変わる。そういう中で、お互いが支え合っていく社会、それを私たちは目指します。

やっぱり未来の未来世代に対する責任を持つということです。皆さんご自身のお子さんやお孫さんの時に、今よりもより厳しいそういう日本になっていて、それでよいのですか。それは無責任じゃないですか。我々はそういう考え方に立って私たちは政治をやっています。今は残念ながら、いろいろ分断されていますけど、私たちは希望を捨てていません。また、同じ志を持ったいくつかの政党が力を合わせて巨大を共に立ち上がることができる。それを作り上げていくのが野党第一党である立憲民主党の責任だとそう思っています。9月には総選挙があるかもしれない。遅くとも来年の6月までにはあると。9月が自民党総裁選挙です。もう1年は切っているのです。何とかして皆さんの力を貸してください。この神奈川県においても、しっかりと選挙区で勝つ人を増やす。それ大事です。中谷さん、今度こそは皆さんの力で何とか選挙区で勝たせていただいて、そして日本のリーダーとして力強く歩み始める。どうか、私たちに力を貸してください。中谷さんに力を貸してください。何とかしてこの国を立ち直していきたいと思います。どうか皆さんよろしくお願いします。



以上の内容で街頭演説会は終了いたしました。

以 上